

Green Brave

#52 埼玉 GB GR Supra GT4

2024年5月24日(金) ~ 26日

BRIDGESTONE

Super Taikyu

Japanese Endurance Race

ENEOS

ENEOS スーパー耐久シリーズ 2024 Empowered by BRIDGESTONE

第2戦 NAPAC 富士 SUPER TEC 24 時間レース 富士スピードウェイ (静岡県小山町)

■ ■ 一時は後退するも後半に追い上げて 2 位表彰台を獲得 ■ ■

第2戦はシリーズ唯一の24時間。ドライバーは山崎、吉田、服部、野中のGBドライバー4選手と、埼玉県出身の若手ドライバー、荒川麟選手です。予選日(金曜日)の天候は晴。予選は15時15分から順次行われ、ジェントルマンのAドライバー、山崎選手が1分48秒582(2位)、Bドライバーの吉田選手は1分47秒467(4位)をマーク。両ドライバーの合算タイムにより、予選2位につけました。

決勝スタート日(土曜日)の天候は曇。チームは1枠の走行時間を80分前後とし、全18枠のレースプランを作成。ピット作業を行う店舗メカニックは日勤班と夜勤班合わせて12名で、夜勤班が全車義務付けのメンテナンスタイム(10分間)を担当します。15時に決勝レースがスタート。吉田選手は順位をひとつ落とし、3位で1周目を終了。吉田選手を含む5人のドライバーは、クルマに過度な負荷をかけずに運転することをチームと申し合わせており、自分のペースを守って走行します。しかし、ライバルのペースが想定より早く、吉田選手は徐々に後退。

93周目、4位走行中の吉田選手がピットに入り、山崎選手に交代します。山崎選手は昨年、夜間の走行に苦心した経験を持っていますが、今年は日中の走行を担当。安定したペースで周回を重ね、137周目には2位まで順位を上げます。

1時間半走行して山崎選手がピットイン。服部選手に交代します。この頃から少量の雨が降り始めますが、路面を濡らすほどではなく、ドライタイヤで周回。187周目、3位まで順位を上げたところでピットに入り、野中選手に交代します。野中選手は順調にポジションアップ。#885GR Supraがピットに入った232周目、初めてトップに立ちます。23時を過ぎたあたりから、雨脚が強まりますが、大きなアクシデントは発生せず、レースは淡々と進行。メンテナンスタイムの実施を見極めながらのレースが続きます。

日付が変わった直後の279周目、野中選手がピットイン。荒川選手に交代し、ドライタイヤのままコースに復帰します。しかし、ピット作業時にエンジン始動を急いでしまい、60秒のピットストップペナルティの裁定が下ります。荒川選手は290周目にペナルティを消化。3位でコースに復帰しますが、2分ほどのロスになってしまい、#885GR Supraの先行を許します。319周目にピットに戻り、レインタイヤに交換。359周まで走り切り、吉田選手に交代します。吉田選手は4位でコースに復帰。周回を重ねながら、SC導入を待ちますが、ブレーキが限界を迎えつつあり、チームは407周目時点でメンテナンスタイムの実施を決断します。ピットに戻ったGR Supraを6名の店舗メカニックが取り囲み、ブレーキパーツ一式を素早く交換。ドライタイヤに交換し、さらに給油も行います。服部選手が乗り込み、6位でコースに復帰。チームは服部選手にプッシュを指示。これ以降、全ドライバーが縁石を積極的に使って走るなど、攻めの走りに転じます。服部選手は4位まで順位を上げ、459周目にピットイン。野中選手に交代し、運転席側のタイヤ2本を交換し、ピットアウトします。

朝6時30分を迎え、路面はほぼドライ。野中選手は480周目に3位に順位を上げ、表彰台圏内に進出します。その後、506周目から荒川選手、さらに552周目から野中選手が走行を担当。582周目には#19ポルシェのピットインにより、2位に上がります。599周目から山崎選手が走行を担当。FCY(フルコースイエロー)中の追い越し違反の裁定が下り、636周目にドライビングスルーペナルティを消化。順位は変わらず2位ですが、トップの#885GR Supraとの差は拡大します。それでも山崎選手はあきらめることなく、プッシュを続け、644周目から吉田選手に交代。Aドライバーの運転時間規定をクリアするため、残り1時間を山崎選手が担当し、#885GR Supraから1周遅れの2位でチェッカー。苦戦を強いられたレースでしたが、チーム力を活かしてしっかり追い上げ、ランキングトップをキープしています。

決勝結果 (ST-Zクラス)

#52 埼玉 GB GR Supra GT4

(山崎 学/吉田広樹/服部尚貴/野中誠太/荒川 麟)

決勝: 2位 (725周、24時間03分09秒752)

予選: 2位 (合算タイム: 3分36秒049)



DRIVERS VOICE

山崎 学選手

最低乗車時間とピット戦略上、最後に乗せてもらい、チェッカーを受けさせてもらいました。去年の24時間は暗いところにいきなり出て行き、路面のタイヤカスが見えない状況になってしまったのですが、今年は明るい時に走ったので大丈夫でした。ただ、ペナルティをもらってしまい、チームに迷惑をかけてしまったので、こういうことがないようにちゃんと準備をし、次戦以降、気を引き締めて戦いたと思います。

吉田広樹選手

決勝中、一時は何位まで下がるのだろうというぐらい、後ろの方を走っていたのですが、最終的に2位まで追いつけることができました。たくさんの方の応援と、チームの頑張りがあったからこそだと思います。チームの総合力が出せたレースだと思います。うまく切り抜けられないところがありますが、それは今後の課題なので、次のレースに活かしていきたいと思えます。

服部尚貴選手

みんなで一丸となつていレースができたと思えますが、正直悔しいです。うまくやれば勝てないレースではなかったと思えます。885号車はいつも一番のライバル。あそこの勝負になるだろうと思っていました。2台の日産Zはどうなるかわからなかったのですが、トラブルが出てしまい、かわいそうでした。この先もレースは続きますが、24時間は年1回です。また来年頑張りたいと思えます。

野中誠太選手

最初のステントはレインコンディションの中、スリックタイヤで走る状況で、トリッキーな路面で非常に難しかったのですが、どんどん順位を上げることができました。いろいろな巡り合わせでうまくいった部分もあれば、悔しいところも順位を下げてしまったところもあり、複雑な気持ちです。ただ、2位という結果は決して悪くないと思えますし、チーム力の確認もでき、収穫の多かったレースだと思います。

荒川 麟選手

主に夜間のセッションに対応しました。スリックで雨の中を走ったり、すごい大雨の中をレインで走ったり、難しい状況でしたが、クルマを壊すことなく帰ってこられたので、そこはまず良かったと思えます。チームのみなさんがペナルティ分を埋めようと一緒に頑張ってくれたので、結果的に2位まで戻ってこられたと思えます。団結力があるチームなので、絶対にチャンピオンを取れると思えます。

ST-Z クラス決勝結果

- 1位：シェイドレーシング GR SUPRA GT4 EVO (トヨタ GR Supra GT4) 726周
 2位：埼玉 GB GR Supra GT4 (トヨタ GR Supra GT4) 725周
 3位：BRP★FUNDINNO PORSCHE 718 GT4 RS (ポルシェ 718ケイマン GT4 RS) 723周
 4位：NANIWA DENSO TEAM IMPUL Z (日産 Z GT4) 723周
 5位：EBI GROUP Cayman GT4 RS CS (ポルシェ 718ケイマン GT4 RS) 721周
 6位：マツハ車検 GR Supra GT4 EVO (トヨタ GR Supra GT4) 697周
 出走11台 トップ6まで

ST-Z クラスポイントランキング

順位	車番	チーム	ポイント
1位	52	埼玉 Green Brave	55
2位	885	SHADE RACING	47
3位	19	Birth Racing Project[BRP]	37
4位	22	Porsche Team EBI	26
5位	20	TEAM IMPUL	23
6位	26	TEAM ZEROONE	19
上位6位まで			

第3戦 7月27日~28日 オートポリス (大分県日田市)

Green Brave PARTNERS



赤城車体工業株式会社
akagi body industry Co.,Ltd.
http://akagi-net.jp



株式会社アース・コーポレーション



株式会社アルシェ



株式会社 FM NACK5



株式会社 岡崎巧芸
株式会社岡崎巧芸



株式会社カーグラス・JP



埼玉群スリーボンド株式会社



株式会社三和広告社



JU 埼玉オートオークション株式会社



株式会社西武ライオンズ



ティーズ・ワークス



株式会社デンソーソリューション



トヨタホーム東京株式会社



トヨタモビリティパーツ株式会社 埼玉支社



富士フイルムビジネスイノベーションジャパン株式会社



有限会社 MY CARS



丸和工業株式会社



Mechanix Wear LLC



株式会社リビコー